



VOICE

千代田区 自由民主党議員団活動レポート

発行：千代田区議会 自由民主党議員団 〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1(千代田区役所7F)

あなたの声をお聞かせください!

▶ウェブサイト <http://jimin-chiyoda.tokyo>

▶お電話 03-5211-4320 ▶ファクス 03-5275-6882



戸張孝次郎



桜井ただし



小林やすお



松本佳子



嶋崎秀彦



内田直之



永田壮一



山田丈夫



池田とものり



大坂隆洋



小林たかや

この度の、西日本豪雨災害により被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

日常生活での備えと、街ぐるみでの防災体制の強化を!

区民の皆さまの安心・安全をいま一度!

第一消防方面・千代田区合同総合水防訓練が皇居外苑で実施されました。(2018年5月12日(土))

平成30年 第2回 区議会定例会



永田壮一

代表質問

喫煙対策の質問では東京都の動向を注視し、受動喫煙対策と同時に喫煙所の整備を求めた。区からは社会的背景、被喫煙者との共生を考えると喫煙所の整備は厳しい状況ではあるが、目標を設定し助成制度を活用して喫煙所整備を促進すると答弁があった。

東京2020大会対策について

問：前回東京大会の伝統を継承し新たな教育方針を示すべき。大会成功にはパラリンピックの機運醸成、子供の参加が重要となる。区の推進計画を実行するために担当部の権限強化を求める。

区の答弁

五輪教育はパラリンピックを意識した障害者理解を明確に位置づけ多面的に進め、大会後も成果を継承する。副区長を本部長に大会対策本部を設置し全庁的に取り組む。

民泊対策について

問：区民の静かで安心な生活を第一とした規制と優良な運営者には支援を求める。届け出の今後の見通し、都内唯一の民泊指導課の体制、違法民泊対策を問う。

区の答弁

本区の受理件数は7件。民泊指導課は警察・消防OB含め10人体制で相談、指導を行う。違法民泊には庁内の情報共有、民間調査会社への委託、協議会を設置して取り締まりを強化する。

障害者支援について

問：東京2020大会に向けた障害者理解、バリアフリーの推進。身体、知的に対して遅れている精神障害者への支援強化を求める。

区の答弁

障害者自身とご家族が安心して生活できるよう、今年度より実施する精神障害支援の新事業に加え区独自の支援充実、施設整備に取り組んでいく。



一般質問

内田直之



都市に急増する
限界マンション

問: 区内のマンションは築30年以上が45%を占め、機能更新の時期を迎える。旧耐震基準、管理組合の機能不全など限界マンションとなる恐れがある。マンション管理に関する現状と課題の認識を問う。

区の答弁

マンションの老朽化と居住者の高齢化が進行する現状を踏まえ、限界マンション予備軍が増えると懸念している。マンション管理の適正化の中で、新たな制度の構築も視野に検討を進める。

秋葉原など多様性のある街への支援

問: 千代田区は秋葉原や神保町、小川町など個性的で魅力的な街を数多く有している。区が本当に支援し育てるべきは大丸有だけではなく、これら多様性のある身近な街と考える。

※その他、リーサスを活用した商工振興施策や起業したい街への提案も行った。

区の答弁

個性的で魅力的なこれらの街が区の商工振興を牽引する重要な役割を担う。相乗効果が得られるような支援に取り組む。

大坂隆洋



子育て支援施策
について

問: 区内保育所では昨年10月以降、10名以上の待機児童が発生したが、すべて0歳児だった。0歳児は受け入れ可能人数も少なく、今期も対策が急務となっているが状況は。

区の答弁

9月に二番町で新規に保育所が開設となる他、居宅訪問型保育(ベビーシッター)事業について、定員数を増やすことを事業者と現在協議中。

問: 区立幼稚園について、通園区域内にもかかわらず、入園できない事態が発生している。保育所だけでなく、幼稚園も入りづらい状況になっているが、その対策は。

区の答弁

幼稚園の整備は用地の確保等の基準が認可保育所よりも厳しくなっている。この3年間で既存幼稚園の定員を35名増やしたが、引き続き民間企業による保育所型認定こども園の整備を検討しながら拡充に取り組む。

桜井ただし



140年ぶりの
民法改正によって
何がかわるのか、国の狙いは

問: 成人年齢が20歳から18歳へ引下げられ国は若者の社会参加を目的に2022年4月1日に施行の予定。歴史的制度改正に国民の理解をどのように広げ混乱を最小限に抑えていくかが大きな課題。区の認識とその影響は。区は区民に一番身近な自治体として何をすべきか。

区の答弁

区として大きな改正と受け止め、18歳の若者が自らの判断によって人生を選択することができる環境を整備すると共に積極的な社会参加を促し活力ある社会が作れるよう取り組む。

区の街路樹について

問: 樹木の根上がりによってプレートや縁石につまずき転倒する人が多い。安全な歩道空間を確保するために区は何をすべきか。区の植栽計画は。国道、都道、区道と異なる道路管理者に対し区はどのような協議を行っているか。

区の答弁

倒木の危険や、根上がりによる歩行通行の障害など道路の安全・安心に支障をきたしている。街路樹の診断調査を実施し道路空間に即した街路樹のあり方、安全対策等を検討。異なる管理者間協議は国と都と区が連携し整備に取り組んでいく。

小林たかや



職員定数と人材育成

問: ①財政を圧迫しないよう人件費を削減してきたが人口増加、ニーズの多様化や専門化に対応できる自前の正規職員数を確保すべき。②職員年齢構成不均衡の改善。③定年延長と退職者のノウハウ継承を。④区民サービス向上のための人材育成は。

区の答弁

①業務量に応じた職員数配置。②民間経験者を採用し年代間の不均衡を改善。③定年を段階的に引上げ定年退職者の活用、ノウハウを継承し人的ミスを防止。④職場OJT、各種研修等で育成。

東京五輪開催に向けた
観光資源の開発と緊急時活用

問: 水辺を観光資源として活用、川や橋などをライトアップ、防災棧橋を観光資源化、いざという時は利用する。

区の答弁

水辺の観光資源化は、観光振興の面から積極的に進める。ライトアップ等は課題があるが今後、検討・研究する。防災棧橋の開放は困難。

山田丈夫



人生100年時代を迎え
高齢者施策について

問: ①知識と経験を活かし働きたい高齢者が多い中、シルバー人材センター会員の増強や受託業務の拡充について、どう考えるか。②高齢者の健康づくりの取り組み状況は。③施設整備で入居者が増えると介護保険料が上昇する懸念がある。影響は。

区の答弁

①会員増なしに受注を増やせない状況。そのため、まずシルバー人材センターの会員確保に向けた取り組みを支援していく。②体力の維持向上・栄養摂取・社会参加を組み合わせたフレイル予防に重点において取り組んでいく。③もともと在宅サービス利用者の多い本区では保険料への影響は限定的である。介護予防の推進と福祉サービスの充実などこれまで同様、介護保険料の上昇幅を小さくできるよう努力していく。



池田ともりのり



放課後等
デイサービスについて

問: ①放課後等デイサービスへの報酬改定にともなう本区でも起きている問題の現状把握と今後の対応は。②児童発達支援等施設整備の強化を進めるべきと考えるが。③障害児から障害者支援へと制度が切り替わる節目において、情報共有など庁内の連携の強化を求めるが。

区の答弁

①本区での放課後等デイサービスの状況を調査し今後対応していく。

②本区でも施設整備が増加傾向であると考え。良質な民間の事業者の誘致も含め整備を検討していく。

③切れ目のない支援をする体制を整えることは大きな課題であるとして十分認識している。庁内はもとより、民間の事業所との連携をさらに強化し、障害等のある子どもへの相談支援体制の整備に取り組み、情報の把握と共有に努めていく。



小林やすお

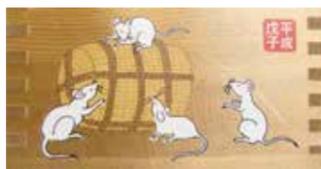


国道・都道の
ネズミについて

問: 区長は招集挨拶で「2020オリ・パラが対外的に千代田区をアピールすることができる絶好の機会と捉え、まちの魅力や風格を一層高める総合的施策を推進」と述べているが、そのためには、秋葉原の歩道植栽に生息するネズミの問題を解決する必要がある。しかし昭和通りは国道、中央通りは都道で区の関与が難しい場所と聞かすが、千代田区の恥であり積極的に関わらざるべきと考える。解決には生ゴミの排出と店での餌となる物の管理と駆除であり、2020年にむけ千代田区として保健衛生の観点から責任もって指導すべきである。

区の答弁

植栽部分は、昭和通りは国・中央通りは都が管理するので区は関与できない。区としては保健所が店内の衛生管理について監視指導する。



安全対策の行き届いた街をめざして。

千代田区では、台風による風水害などの災害に対して、発生から最接近まで、時間ごとにあらかじめ誰が何を行うかなどを定めた行動計画であるタイムラインを作成し、区民の安全のために注意喚起を促すなど、必要な対策を図っています。

ハザードマップで
危険箇所の確認を

洪水や土砂災害による地域の浸水想定や危険箇所を示したハザードマップを作成しています。

マップは、災害対策・危機管理課または各出張所で配布しているほか、区ホームページからも確認できます。



【千代田区洪水避難地図】
<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kurashi/bosai/suigai/map.html>

適切に避難するために
正しい情報を

災害発生時にホームページをはじめさまざまな手段で災害情報を発信します。

■千代田区安全・安心メール

お持ちのスマートフォンやパソコン等のメールアドレス宛に避難情報や気象情報等を配信します。登録方法は、区のホームページをご覧ください(QRコードからアクセス可)。



■防災行政無線

放送内容が聞こえなかったときや聞き逃してしまった場合は、防災無線ダイヤルで確認してください。

【防災無線ダイヤル】
☎03-3237-9222

風水害時の
避難のポイント

危険箇所から速やかに離れる方法として「立ち退き避難(水平避難)」と「屋内安全確保(垂直避難)」の2つの方法があります。



テレビ等で気象情報を確認しつつ、区から避難情報が発令されるなど危険が迫ったら早めに避難しましょう。

既に浸水が始まっていたり、夜間で見通しが悪かったりするときは、無理して避難所まで行かずに、自宅か近隣の頑強な建物の2階以上に一時避難しましょう。